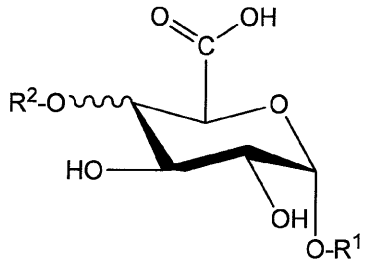
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成18年8月17日(2006.8.17)

【公開番号】特開2006-137775(P2006-137775A)
【公開日】平成18年6月1日(2006.6.1)
【年通号数】公開・登録公報2006-021
【出願番号】特願2006-28102(P2006-28102)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　31/702　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/7028　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　37/08　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/12　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　37/02　(2006.01)
Ａ２３Ｌ　1/30　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　31/702
Ａ６１Ｋ　31/7028
Ａ６１Ｐ　37/08
Ａ６１Ｐ　43/00　１０７
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｐ　31/00
Ａ６１Ｐ　31/12
Ａ６１Ｐ　37/02
Ａ２３Ｌ　1/30　Ｚ

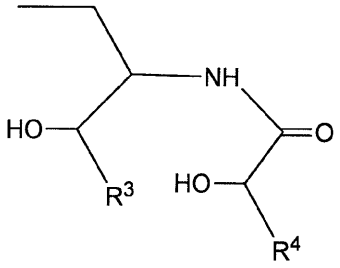
【手続補正書】
【提出日】平成18年6月29日(2006.6.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
下記式（１）で表される構造を有するスフィンゴ糖脂質を含有することを特徴とする抗腫瘍作用組成物。
式（１）
【化１】



（式（１）中、R^1は、下記式（１－１）

式（１－１）

【化２】



（式（１－１）中、R^3は、アルキル基またはアルケニル基であり、R^4は、アルキル基である。）を表し、

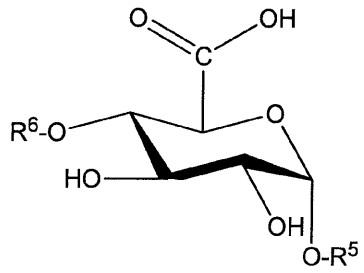
R^2は、水素原子または、α－ガラクトース基、α－グルコース基、α－マンノース基、α－グルコサミン基若しくはβ－グルコサミン基またはこれらの組み合わせからなる基である。）

【請求項２】

下記式（３）で表される構造を有するスフィンゴ糖脂質を含有することを特徴とする抗腫瘍作用組成物。

式（３）

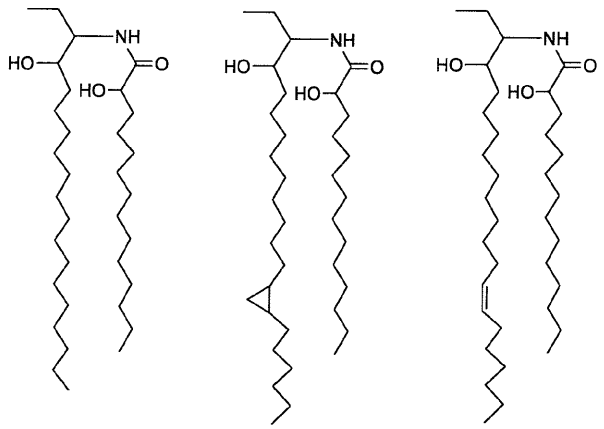
【化３】



（式（３）中、R^5は、下記R^{51}、R^{52}、R^{53}、R^{54}、R^{55}、R^{56}、R^{57}、R^{58}、R^{59}、R^{70}、R^{71}、R^{72}、R^{73}、R^{74}、R^{75}、R^{76}、R^{77}又はR^{78}を表し、R^6は、水素原子、R^{62}、R^{63}、R^{64}又はR^{65}を表す。）

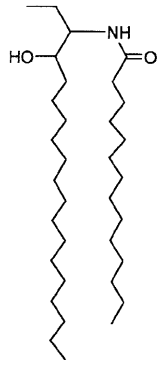
【化４】

R^{51}：　　R^{52}：　　R^{53}：

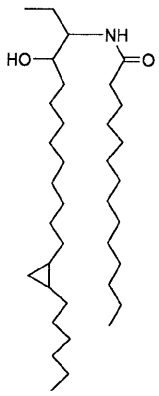


【化５】

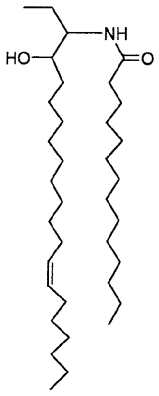
R^{54} :



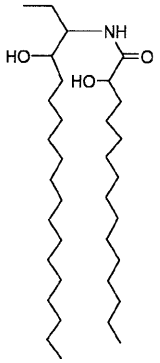
R^{55} :



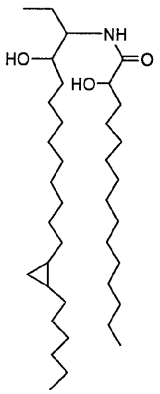
R^{56} :



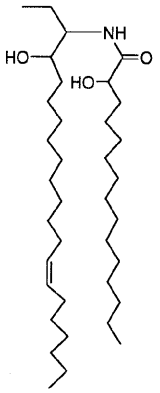
R^{57} :



R^{58} :

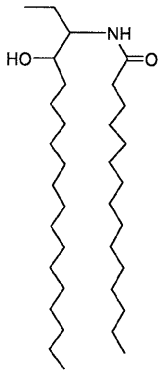


R^{59} :

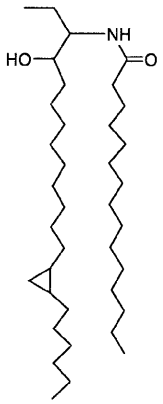


【化６】

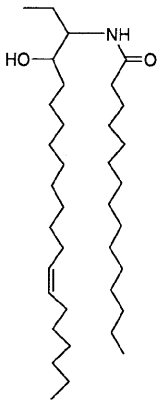
R^{70}：



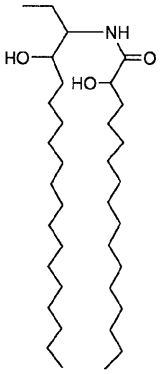
R^{71}：



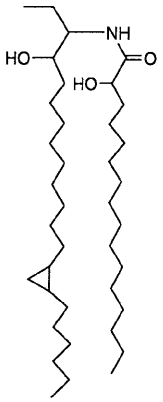
R^{72}：



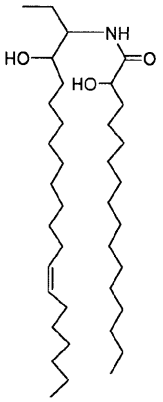
R^{73}：



R^{74}：

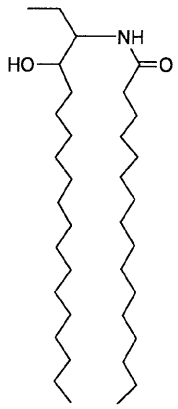


R^{75}：

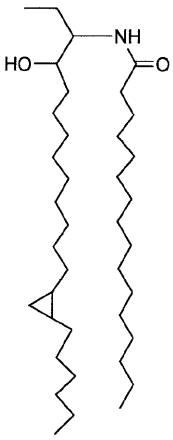


【化７】

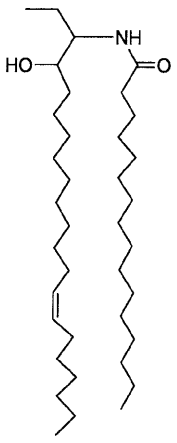
R^{76}：



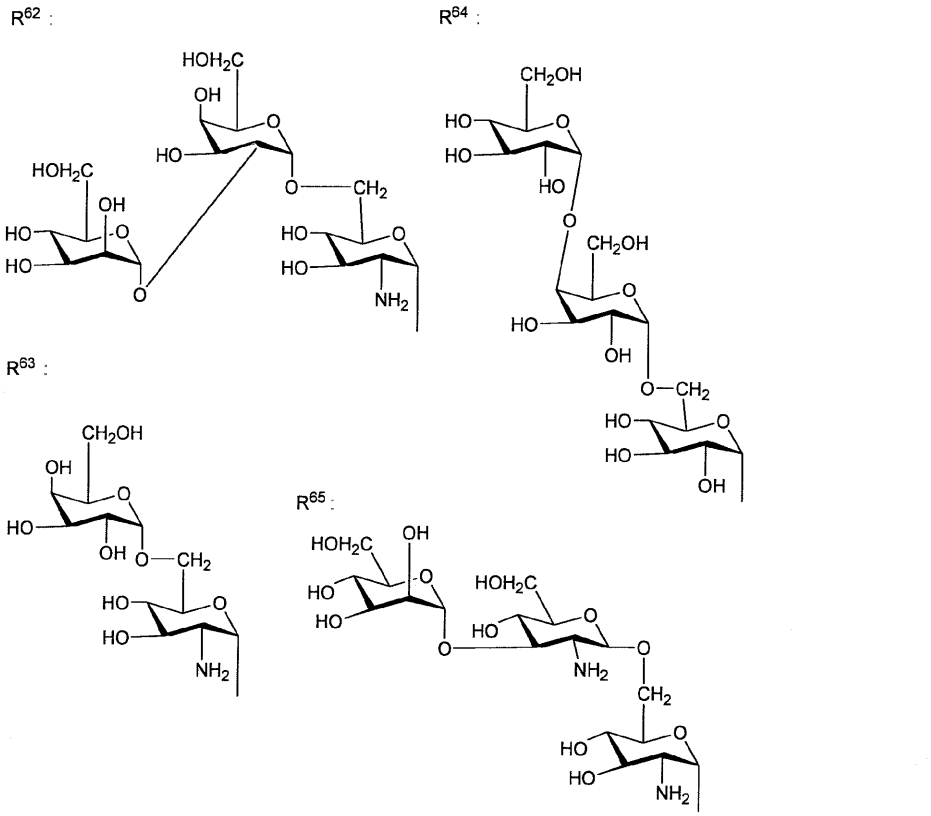
R^{77}：



R^{78}：



【化８】



【請求項３】
前記スフィンゴ糖脂質が、前記式（３）において、R^6が水素原子である、請求項２に記載の抗腫瘍作用組成物。
【請求項４】
前記スフィンゴ糖脂質が、前記式（３）において、R^6がR^{62}である、請求項２に記載の抗腫瘍作用組成物。
【請求項５】
前記スフィンゴ糖脂質が、スフィンゴモナスパウシモビリスおよび／またはスフィンゴモナスヤノイクヤエから産生されたものである、請求項１～４のいずれか１項に記載の抗腫瘍作用組成物。
【請求項６】
前記スフィンゴ糖脂質が、スフィンゴモナスパウシモビリスから産生されたものである、請求項１～４のいずれか１項に記載の抗腫瘍作用組成物。
【請求項７】
前記スフィンゴ糖脂質が、スフィンゴモナスヤノイクヤエから産生されたものである、請求項１～３のいずれか１項に記載の抗腫瘍作用組成物。